

行政調査報告書「低炭素まちづくり特別委員会」

平成 26 年 10 月 29 日(水)～31 日(金)

■京成バス株式会社（奥戸営業所／東京都）『電気自動車による公共交通のグリーン化促進事業について』

東京都墨田区が、観光客の回遊性と区民の生活利便性の向上を目的として、平成 24 年 3 月に営業運行（京成バス株式会社に委託）を開始し、1 日に 7 便運行している。電気バスや充電設備にかかる導入費用の全額を国と東京都の補助金で賄い、環境に対する取り組みのアピールや企業のイメージアップとしての効果は期待できるが、現在のバッテリー性能では、1 周運行するごとに充電が必要であり、台風や降雪など渋滞が予想される場合は運休するなど、コミュニティ交通としての利用には制約が多いことが課題となっていた。



現状では、本市のあんくるバスの運行ルートで実稼動することは難しい。しかし、バッテリーの技術革新が進み、充電時間の短縮、航続距離の長距離化が達成され、初期投資を抑えることができれば、電気コミュニティバスの導入も不可能ではない。今後、普及が予想される F C V バスと両面で検討が必要と考えられる。

■チョイモビヨコハマ実行委員会／日産自動車株式会社（横浜市）『チョイモビヨコハマについて』



「チョイモビヨコハマ」は、平成 25 年 10 月から開始された、日本初の超小型モビリティを活用した大規模なカーシェアリング実証実験である。第 1 期（～平成 26 年 10 月）の実績は、会員数 11,200 人余、車両数 70 台、駐車場所（ステーション）63 カ所（131 台分）で、1 日の平均利用人数は約 70 人である。観光で市内を周遊する人の足としての利用が多く、平日の稼働率の向上が課題となっていた。

ステーションに充電設備を設置しない手法は、初期投資を抑えられ機動性の点でも有効であり、本市が進めていく安城カーシェアリング実証事業「き～☆モビ」において、事業モデルを構築する際の参考になった。サービスの魅力と利便性を絶えず発信していくことが利用喚起を図る上で重要であると聞き、「き～☆モビ」も乗車が楽しくなるような仕掛けや使い勝手の良い運用、広報宣伝に努める必要があると感じた。

■エネルギー最適化実証施設（東京都）『スマートエネルギー（スマエネ）実証事業について』

訪問したスマエネや再生可能エネルギーの活用に関する最先端技術などの先進的な取り組みを紹介する施設では、地域全体でエネルギー利用効率を最大化する実証事業が行われている。太陽熱集熱器や太陽光パネル、地下トンネル水などの再生可能エネルギー、未利用エネルギーを積極的に活用しており、また、IT 技術により地域全体のエネルギー需給を一括管理・制御する仕組みを導入するなど、省エネ・省 CO2 を実現する取り組みが行われている。



これらのほかに、水素ステーションと F C V（燃料電池自動車）に関する取り組みも行われており、本市も、これらの最先端技術や取り組みを参考にし、低炭素なまちづくりを推進する必要があると感じた。